

風と太陽のくにからの通信誌

カラゴロリ

2011 9



Passion doesn't count cost

風のおと

皆様、
応援よろしく申し上げます

国立青少年教育施設のあり方を考えるための試行事業を、赤城青少年交流の家でスタートさせます。外部の方々を中心に運営協議会を立ち上げ、色々なチャレンジをしていきます。

しかし運営協議会の人数も、回数も限られています。そこで、赤城青少年交流の家を良くしていくために、色々応援してあげてもいいぞという方々に、ご協力をお願いしたいと思っています。

具体的には、メールや、このニュースペーパーで、試行事業の様子をご連絡しますので、ご意見を頂戴できればと存じます。

「情熱は計算づくではない」

今回の表紙絵は、秋の野を赤く染める彼岸花をモチーフとしています。彼岸花は曼珠沙華とも呼ばれ、梵語で「紅色の花・天井の花」を意味し、おめでたい兆しとされます。花言葉は「情熱=passion」。上の一文は、イギリスの作家モームの言葉です。何かを成すには計算は大切ですが、それを支える情熱に計算は要らない…私たちの姿勢にも通じる言葉です。

(絵：金井麻耶)

また、手弁当でおねがいすることになりますが、何度かは、皆さんにお集まりいただき、意見交換などできればとも思っています。

もちろん、その情報を元に、こんなことできるよとか、こんな人紹介するよといったことも大歓迎です。

もし、ご協力いただける方は、akagi@niye.go.jp に、まずは情報を送れと、メールを頂戴できれば幸いです。

所長 桜井義維英

赤城の大自然とともに…大きく成長した2011年・夏

「木」をテーマにし、赤城の自然を感じ、環境を考えていく6泊7日のエコキャンプ、「あかぎフォレストステイ体験隊」が8月23日(火)に無事終了しました。

参加児童は、本所の「山のキャンプ場」にテントを張り、様々な環境に関するプログラムを体験しました。松枯れの状況を見学したり、炭焼きをしたりすることで、赤城の環境問題に触れていきました。また、地藏岳の登山や前橋市赤城少年自然の家のミズナラ林での「ツリーイング」(ロープを用いた木登り体験)、あかぎ木の家でのネイチャークラフトを通じて、自然や樹木を身近に感じていたようでした。

キャンプ中に行った野外炊事も参加児童の心に残る活動となりました。竹筒を利用した「竹ご飯」や枯れ松の炭を使ったドラム缶ピザ窯での「手作りピザ作り」など、自然のものを使った炊事に参加児童は目を輝かせて取り組んでいました。

6泊7日の最後を飾る「閉校式」では、参加児童、スタッフともに、やり遂げた充実感と名残惜しさで感極まって涙する姿もみられました。

参加児童からは「久しぶりに自然をいっぱい感じた。森のことをたくさん知れたから、今後生かしていきたい。」といった環境に関する感想の他、「協力することの大事さや友達の大切さを知った。」という友情の深まりや「参加したら性格が明るくなれたような気がする。」といった自分自身の成長を感じ取ることでできた感想も寄せられました。(文:西田)



小雨の降る中、ミズナラの木に登る子どもたち
=8月19日、前橋市赤城少年自然の家にて



ドラム缶から焼きあがったピザを取り出している様子=8月21日、交流の家屋根付き広場にて

【キャンプの枠組み】

- 宿泊: キャンプ場、本館宿泊棟の併用
- 食事: 食堂、自炊の併用
- 1日目: 生活環境づくり/2日目: 松枯れ学習、炭焼き、竹クッキング(竹ご飯&バウムクーヘン)/3日目: ネイチャーゲーム、ツリーイング(前橋市赤城少年自然の家)/4日目: 登山(地藏岳)、登山食で夕食づくり/5日目: 森林学習、クラフト(木の家)、ドラム缶ピザづくり/6日目: テント撤収、植林、思い出の木づくり/7日目: ふりかえり

これからの動き

十月一日(土)からスタート!
【平成二十四年度の施設予約】
お電話でお問合せください。



十月八日(土)~十日(月)

【あかぎ多文化共生推進プロジェクト】
県内ブラジル人学校と協力し、外国人子女の日本語習得および日本社会の文化・習慣の理解促進のための、体験活動プログラムの開発・実践をします。

十月二十二日(土)~二十三日(日) ★参加者募集中

【ホップ! ステップ! キャンプ!】

収穫の秋、いも掘りをします。テントで泊まって、秋の夜長を友だちと楽しみましょう。※対象: 小学生

十一月三日(木)~六日(日) ★参加者募集中

【自然体験活動指導者養成研修】

小学校の自然体験活動において、教育効果の高い自然体験・生活体験の機会を提供するための指導者を養成します。※対象: 二十才以上

十一月十二日(土)~十三日(日) ★参加者募集中

【青少年体験活動フォーラム】

(会場: 国立警備青少年交流の家)
青少年の体験活動の関係者が一堂に会し、青少年の課題に対応した体験活動の事例研究、ワークショップ、情報交換等を行います。
※対象: どなたでも可



十二月十日(土)~十一日(日) ★参加者募集中

【青少年自立支援者のための研究交流フォーラム】
〜アニマルセラピー・震災復興支援を考える〜
※対象: 高校生以上

プログラム紹介!

【うどん打ち体験】

「うどん打ち体験」プログラムは、本格的な道具を使って、実際にうどんを打ち、それをゆでて食べるものです。日本の伝統文化のひとつである「うどん打ち」を実際に体験し、体験者同士の交流が図れるプログラムです。

まず、小麦粉(地粉)をふるいにかけて、さらさらの状態にしてこね鉢に入れます。そして、塩と水をまぜて溶かしておいたもの(食塩水)をかけ、すばやくかき混ぜ、さらにこね回します。それをまとめた後、もち肌状になるまでねり、それをビニールに入れ、足で20分ほど踏みます。



うどん職人の手ほどきを受けながらつくります!

30分ほどねかせてから、薄くのばし、切ります。それをゆでて出来上がり。

食堂から、めんつゆと天ぷらが届いて楽しい会食の始まりです。ぜひ体験してみてください。(文:坂田)



めん棒でうどんを伸ばしているところ

赤城青少年交流の家で活躍する、非常勤講師やボランティアの方をご紹介します

この人に会いたい



さいとう えみこ
齊藤恵美子さん
(七宝焼プログラム講師/アトリエCOCO)
さいとう よしこ
齊藤芳子さん
(七宝焼アーティスト/プログラムアシスタント)

齊藤恵美子さん・芳子さんは、赤城青少年交流の家の七宝焼プログラムの講師を務めておられます。母親の芳子さんが七宝焼アーティストであったので、自宅には、様々なアーティストの方が集い、語りあい、歌い、創作し…まるでサロンのような場所だったそうです。そういった環境で恵美子さんは育ちました。恵美子さんは「普通のおうちがうらやましかった」と。芳子さんは、美術学校時代に七宝焼の基礎を学び、卒業後はテキスタイルデザイナーとして活躍しながら、七宝焼の指導もされていました。現在は、日本を越え、海外でも活躍されています。

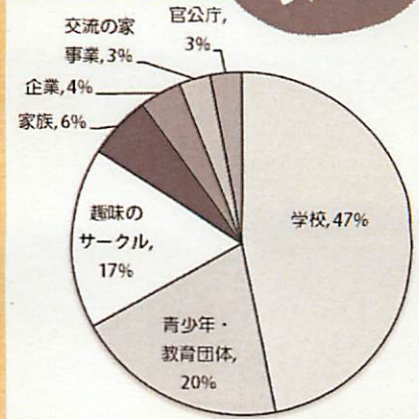
七宝焼は、「短時間で焼成でき、身につけて帰れる」「重ね方(焼く)温度により色は無限量に作り出すことができる」ことが一番の魅力だとおっしゃいます。焼いてみるまで、どんな色がでるかわからない…それを「火の神にまかせると」芳子さんは表現されました。「七宝焼きアトリエCOCO」ブログ http://blogs.yahoo.co.jp/coco_saito で、お2人の活動を見ることができます。交流の家での体験の様子もアップされていますので、ぜひご覧ください。七宝焼きの世界観が変わりますよ。(文:柴崎)

利用のようす(6~8月)



- 6月の利用者数
…16,635人 164団体
- 7月の利用者数
…15,156人 156団体
- 8月の利用者数
…15,207人 172団体

★利用団体
種類別の割合⇒



あかぎをつかう!

みなさんの声



利用にあたりよくある質問

Q1 「利用についての詳しい内容」は、どこを見るとわかりますか?

⇒赤城青少年交流の家のホームページ <http://akagi.niye.go.jp/> のフラッシュ画像(写真)下部のポップアップボタン

に、「利用案内」「活動プログラム」「教育事業」「ボランティアの部屋」という項目があります。その中の「利用案内」にカーソルをあわせると…利用に関する詳細をご覧いただけます。参考にしてくださいね。わかりにくい所はお電話にてお問合わせください。

Q2 「食事・お風呂の時間」はどのように設定したらよいですか?

⇒「利用案内」の「利用ガイド」の「標準生活時間」を参考にしてください。予定していた時間が混雑することもありますので、ゆとりを持った計画を立ててください。

アンケートより

★引率者はなかなか時間内に入ることができないため、入浴時間を長くして欲しい。

⇒浴室の中でしかできない指導もあるため、引率者の方には研修生・児童・生徒のみなさんと一緒に入浴していただきたいと考えています。しかし、すべての引率者の方が一緒に入ることができない実情も考慮して、大浴場終了後から23:00までリーダー浴室を利用できるようにしております。

リーダー浴室を利用できる時間を延長して欲しいという声も聞かれますが、現在は消灯時間である23:00を最終としています。今後も検討して参ります。

★バリアフリー化は進んでいますか?

⇒今春より、エレベーターが1基増え、玄関より食堂までは車椅子で行けるようになり、ハード面のバリアフリー化が一步前進しました。宿泊棟E棟2階は障害者対応のつくりになっていますが、階段等のハード面の課題は解消できていないのが現状です。

まだ、完全でないハード面のバリアフリー化を進めていくとともに、スタッフはじめ、周囲の人々が手を添え、助けあえる場づくりも、施設の役目であると考えています。今後も、すべての人が気持ちよく過ごせるための環境改善を進めていきたいと思っております。

※○の数字は月を表しています。

【赤城自然塾】 <http://www.akagicge-shizen.com/>

赤城自然塾は、赤城山周辺で自然体験活動を行っている団体です。

拠点は、交流の家から車で20分程のところにあるサンデンフォレスト(サンデン株式会社が維持している森)。里山の森で遊んだり、森の循環を考えたり、生命の息吹を感じたり…環境教育をキーワードとしたプログラムを体験することができます。また、環境ガイドの養成など、指導者養成も行っています。

フィールドはサンデンフォレストだけでなく、赤城山、ふれあいの森、ここ赤城青少年交流の家など幅広く、地域の広がりを持ったプログラムを体験できるところが魅力です。(文:柴崎)



- 所要時間:
赤城自然塾の事務所まで、交流の家から車で20分。
- TEL:027-212-2611
- 前橋市粕川町中之沢7 (サンデンフォレスト内)
- 主な活動
 - ・覚満淵周辺の自然観察
 - ・森のウォークラリー
 - ・植林活動、炭焼きなど

- ①夏休みが終わりました。宿題を溜めて叱られた自分が、今ここにいます。宿題(仕事)、直ぐやりますから……。 (新井)
- ②木々の葉が色づきはじめ、秋の訪れを感じます。いよいよ今年度も下半期、収穫の多い一年になるといいですね。(石川)
- ③夏季の慌しさと共にゴロリの季節も過ぎました。これからやってくるカラの季節に向けて色々準備しなくちゃなあ(大澤)
- ④赤城に勤めて良かったと思う事。それは、紅葉(自然)の素晴らしさ!! 秋・大好きな季節が近いです。(武笠)
- ⑤草刈りの後の匂い。雨が降り始めた時の匂い。蚊取り線香のにおい。私は煙の匂いが好きです。これも大切な体験です。(桜井)
- ⑥秋風の中で自然を満喫し、木々のささやきに身を傾けてはいかがですか? 赤城で!! (佐藤)
- ⑦秋雨前線の影響で、猛暑から一転、子どもたちは少し肌寒いキャンプ生活。ヒグラシが夏の終わりを告げて寂しげです。(島崎)
- ⑧夏が終わりますねえ…。やや猛暑だった赤城にも秋の風が…。キャンプの季節です。楽しいキャンプしましょう! (山崎)
- ⑨最近スーパーでの買い物中、知らない人に「こんにちは～」と挨拶しそうになります。職業病ってやつでしょうか。(秋山)
- ⑩多目的フィールドの芝刈りを行いました。やっぱり綺麗なフィールドは気持ちいい! 皆さんにここで思いっきり体を動かしてほしいです。(西田)
- ⑪教育事業で子ども達が作ってくれたカレー、最高においしかったです。ありがとうございます。(加藤)
- ⑫今月の「つぶやき」はお誕生日順に並んでいます。人柄と誕生日は何となくリンクしているかも? ちなみにここは8月です。(柴崎)
- ⑬無事に夏の体験プログラム「あかぎフォレスト探検隊」が終了しました。日々の様子を所のHPに掲載しておりますので、皆さん見てください。(田村)
- ⑭9月といえば秋のスタート。秋晴れのもと登山をするのは最高です。ぜひ、交流の家に泊まり赤城の山々を巡ってみては? (廣澤)
- ⑮この夏は、みなさんからたくさんの笑顔をいただきました。お腹いっぱいです! (小野里)
- ⑯スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋がやってきました。利用中に体調を崩さないように、日々の健康管理は万全に!! 少しでも時の為の準備もお忘れなく!! (鈴木)
- ⑰赤城はすっかり秋らしくなったと思ったら、残暑厳しい日々です。ますます秋めいてくる赤城に足をお運びください。もうすぐ紅葉が見られますよ。(坂田)
- ⑱赤城の夏は暑いですが、今年は天気が優れない日もあり、そのおかげで? なんとかしのげました。みなさんお疲れ様でした。(金井)
- ⑲これから秋を迎え、自然も様々な表情を見せてくれます。赤城での研修生活が実りあるものになるよう、力を合わせて頑張りたいと思います。(星野)
- ⑳今年の夏は、ゴーヤをたくさんいただきました(グリーンカーテンのおかげ)。カレー、天ぷら、ゴーヤチャンプルなど…大変美味しくいただきました。(神山)
- ㉑読書・スポーツ・食欲の秋、今年はスポーツの秋で頑張ってみようかと思えます。紅葉を見ながらスポーツはいかがですか? (阿佐美)



●ぼくの名前は「ササビー」。赤城の森に、先祖代々住んでいるんだ。よろしくね!! (ササビー)

リレーcolumn すたっぷの目

文:金井 麻耶【かない まや(まーやん)】

利用団体との窓口役
カラゴロリの表紙絵を担当しています

赤城青少年交流の家ではたくさんの植物を見つけることができますが、それらを生き生きとカメラに収めている職員がいます。企画指導専門職のIさんです。Iさんの写真を見ると、赤城の自然が色鮮やかに蘇ってきます。

そのIさんの写真を、カラゴロリの表紙絵の題材として使用しています。表紙絵は赤城の自然を表すものにしたという考えがあったので、ちょうど良い題材になると思われたからです。

今回からカラゴロリはカラーで見ることができます。

(Web版の方のみです。印刷版の方はごめんなさい!) 彼岸花という、鮮やかな色をもった植物を描いてみましたが、本物には全く敵いませんね(Iさんの写真にも)。

是非赤城に来て、本物の植物と出会い、観察してみてください。

Iさんの写真も見られるかもしれません。



筆者の素顔です

「所長のつぶやき」
「トビックス」更新中

《利用案内》

- ◆10/1～H24年度予約スタート!
- ◆予約はお電話でお問合せください
- ◆日帰りの予約は
ご利用日の1か月前からです
◎詳しくはHPをご覧ください◎

国立赤城青少年交流の家 <http://akagi.niye.go.jp>

TEL: 027-289-7224 (9:00~18:00)

FAX: 027-289-7226

〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山 27

✉ akagi@niye.go.jp

赤城 国立

検索